

ONLY 1 オンリーワン 企業紹介

株式会社花火創造企業

世界に誇る“花火”を産業の起爆剤に!

国産初の玉貼機械の導入や1万脚以上のパイプイスを花火大会用として全国にレンタルする等、幅広く画期的な取り組みに注目が集まっている。現在は国産初の無線点火システムを開発中。

国内で唯一 “花火を打ち上げない”花火会社

全国的な知名度と人気を誇る「大曲の花火」を核に、官民あげて産業や文化、教育など様々な分野で地域経済の活性化を狙う大仙市の「花火産業構想」。その一端を担うのが、2015年に設立された株式会社花火創造企業だ。100%民間資本である同社の代表は株式会社小松煙火工業の代表でもある小松忠信氏が務める。

「当社のコンセプトは花火を“造る”“観る”などの総合的な視点で花火の事業化を目指す全く新しい花火生産拠点です。国内で唯一製造だけを担い、“花火を打ち上げない”花火屋でもあります」。

現在、同社が製造するのは「錦冠菊」と呼ばれる花火のうち、量産化に適した5号玉以下のサイズのみである。「質の安定化」と「量産化」は相反する課題であるが、製造過程の中で最も労力を費やす玉貼作業に、全国初となる国産の玉貼機械を導入し、課題解決のみならずコスト削減にも成功した。

「目指すのは同業社と競合することではなく、棲み分けを明確化することです。我々が汎用性の高い花火を造ることで、他社は自分たちの技術を存分に生かした手間のかかる花火造りに注力できます」。

“花火のまち”から発信する 花火業界の未来

長く同市で花火業界を牽引してきた小松代表だからこそ、見据えるビジョンの裾野は広い。

「日本と世界では花火のあり方が根本的に違います。一発の質の高さにこだわる日本と違い、海外では音楽に合わせた大量打ち上げで魅せるのが主流です。近年では日本でも演出花火が増えていますが、使用するシステムや機材は外国製が多く、輸入に頼らざるを得ないのが現状です」。

外国製品は英語表記の上、メンテナンスにも手間がかかり、使い勝手に難があることから、同社ではその解決に向け、国産初の無線点火システムの開発に取り組んでいる。

常に最先端の技術や情報を発信していくことで刺激や雇用を生み出し、業界全体の発展に繋がればと小松代表は笑顔を見せる。

「業界全体が発展すれば“花火のまち”の注目度もますます上がります。今後は、観光の面からも昨年オープンした花火資料館『はなび・アム』との連携など、この街ならではの取り組みで更なる地域活性化に貢献していきたいですね」。



代表取締役社長
小松 忠信
Tadanobu Komatsu

株式会社花火創造企業

〒014-0073
秋田県大仙市内小友字山根89番地31号
TEL. 0187-73-5101
FAX. 0187-73-5103
<http://hanabisouzo.co.jp/>

会社概要

2015年設立。「大仙市花火産業構想」に基づく花火製造・打ち上げ技術を基盤とする新たな花火生産拠点。

